（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高相　徳志郎	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.05	・大学院教育（理工学研究科）に参加し、亜熱帯植物の特徴を講義に取り込む。 ・学生から講義内容の希望を聞く。	0.05	・理工学研究科に参加し、亜熱帯植物の特徴について講義を行った。 ・学生から講義内容の希望を聞いた。
研究	0.65	・少なくとも2編の論文を学会誌へ投稿をする。 ・学会で報告発表をする。1回。 ・外部資金の獲得に努める。	0.60	・Plant Reproductionにソテツ論文が掲載された。 ・学会での報告発表は無かった。 ・One leaf Fundの助成金獲得に実質的に加わった。科研費を含め応募4件。
社会貢献	0.25	・教育用図書についての助言をする（24年度文部科学省・教科用図書検定調査審議会専門委員）。 ・学外の各種調査、研究会等へ積極的に参加する。 ・小中学校・高校で様々の形態の出前授業を行う。 ・地域住民（一般）を対象に、植物学の授業を行う。	0.30	・24年度文部科学省・教科用図書検定調査審議会専門委員を務めた。 ・沖縄自動車道、中城村安里で表土流失防止、景観改善実験を行った。 ・知念高校、石嶺中学校で出前授業を行った。 ・沖縄産業まつりに参加し、児童・生徒等に植物のつくりについて説明。
管理運営	0.05	・熱帯生物圏研究センターの運営に関する職務（教員選考委員会への参加等） ・理工学研究科に付随する運営職務	0.05	・熱帯生物圏研究センターの運営職務に通常参加をした。 ・理工学研究科の試験問題作成、採点を行った。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山平　寿智	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	博士前期過程（進化生態学特論）と博士後期過程（熱帯進化生物学）の講義をそれぞれ開講する．また，週１回の研究室セミナーを通じて，研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行う．特に，主指導をしている学生2名（後期1名前期1名）に対しては，適宜個別面談による研究指導も行う．	0.20	博士前期過程と博士後期過程の講義をそれぞれ開講した．また，週１回の研究室セミナーを通じて，研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行った．主指導の博士後期課程の学生1名および特別プログラム博士前期課程の留学生1名に対しては，適宜個別面談による研究指導も行った．
研究	0.40	科研費による研究を実施し，学術誌での論文２編，学会発表３件を目標に成果発表を行う．これと並行して，日本海区水産研究所との共同研究の成果も学術誌に発表する．また，国立遺伝学研究所と名古屋市東山動物園との共同研究も継続する．日本生態学会九州地区委員の任も遂行する．	0.40	科研費による研究を実施し，国際誌２編と学会発表４件の成果発表を行った．うち国際誌1編は，日本海区水産研究所との共同研究の成果である．また，国立遺伝学研究所と名古屋市東山動物園との共同研究も遂行し，その成果をそれぞれ学会で発表した（上記４件中２件）．日本生態学会九州地区委員の任も遂行した．
社会貢献	0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れると共に，先方との窓口的業務を行う．また，名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し，飼育業務に関するアドバイスを行う．	0.10	開邦高校および浦添中学校からのインターンシップを受け入れた．インターンシップでは各校との窓口的業務も行った．また，名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し，飼育業務に関するアドバイスも行った．
管理運営	0.20	西原研究施設の代表として施設長懇談会に参加し，部局の管理運営に携わる．また，熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行する．加えて，理学部の教育委員会の委員の任も遂行する．	0.20	西原研究施設の代表として施設長懇談会に参加し，部局の管理運営に携わった．また，熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行した．加えて，理学部の教育委員会の委員の任も遂行した．
進路指導	0.05	博士後期課程の学生に関しては，各種奨学金や日本学術振興会特別研究員の採用のための支援（申請書の添削，推薦状の作成）を行う．前期課程（特別プログラム）の留学生に対しては，帰国後のアカデミックポジションへの就職と後期課程進学との両方を視野に入れつつ教育指導にあたる．	0.10	博士後期課程の学生に関しては日本学術振興会特別研究員DC2の採用のための支援（申請書の添削，推薦状の作成）を行い，来年度からの採択に導いた．また，特別プログラム博士前期課程の留学生に関しては博士後期課程への進学（プログラム延長）のための支援を行い，学内の推薦候補者に導いた．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	戸田　守	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	研究室所属の大学院生を対象に研究指導を行い，生物多様性の実態解明の方法論を理解させる．既にデータを出している院生に成果をまとめるよう指導し，学会発表や論文として公表させる．海外の研究者との連携を強化し，院生達が外部との繋がりを築けるようサポートする．	0.40	研究室でのゼミを中心に，各々の大学院生との対話を通して研究の進捗状況を確認し，データの取得方法，結果の解釈に関して指導を行った．特に，学会発表や論文の作成について多くの時間を費やした分，院生達のステップ・アップに貢献できた．
研究	0.30	これまで招聘している外国人客員研究員とともに研究成果の公表に取り組む．昨年度，部局内の事業として進めたプロジェクトを完結させ，成果の公表まで行う．これらとは別に爬虫両生類の多様性に関する研究を進め，3編以上の論文を査読付き学術誌に投稿する．	0.20	外国人研究員による研究に関しては，知見の公表のサポートはできたが，プロジェクトのメインの部分を共同でまとめるには至らなかった．一方，論文の投稿に関しては目標を達成できず，投稿1編，間もなく投稿できる状態まで漕ぎ着けたもの2編にとどまった．
社会貢献	0.10	沖縄県と国の機関が行う生物多様性保全事業のうち，陸生脊椎動物に関連する3つ以上の事業に参画し，当該分野の専門家として事業の推進に貢献する．	0.20	これまでに引き続き，環境省による外来種問題検討委員会，レッドリストの見直し検討委員会，北部ダム事務所によるダムのモニタリング委員会に参加し，生物多様性保全に向けた意見を述べた．沖縄県の天然記念物調査委員として活動では多くの成果をあげることができ，報告書にまとめた．
管理運営	0.20	西原本部の運営について，教授をサポートする．また，昨年度のから持ち越しとなっている標本室の整理を今年度中に完了する．理工学研究科の所属講座の活性化に向け，センター内の関係者と話し合いを持ち，理学部との連携も図りながら現状の改善にあたる．	0.10	西原本部の運営に関して，教授のバックアップが十分にできたとは言い難い．また，昨年同様，標本の整理は，一部の標本の処理を行ったものの，完結させるにはほど遠く，目標は達成できなかった．理工学研究科生物系との連携については，大学院学務の常務は行ったが，踏み込んだ議論はできなかった．
進路指導	0.10	院生達と，直接研究内容に関わる部分以外でも対話を持つ機会を増やし，彼等・彼女等が将来のビジョンを具体的に描けるようサポートする．	0.10	院生達と将来の展望について対話を持つことはできたが，結果として有益な助言ができたとは言い難い．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	酒井 一彦	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	研究室に、今年度最終学年に在籍する博士後期課程の大学院生が2名所属しているので、期間内での学位取得修了を目指し、教育を行う。	0.15	研究室に所属した、今年度最終学年であった博士後期課程の大学院生2名のうち、1名の目標期間内での博士学位取得を実現したが、1名については目標期間内に博士学位を取得させることができなかった。
研究	0.50	サンゴ礁の生態および保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験で推進し、今年度内に5編の学術論文を査読ありの雑誌に出版または受理されることを目指し、研究を行う。	0.55	サンゴ礁の生態および保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験で推進した結果、年度内に10編の学術論文が、査読ありの雑誌に出版、または受理された。
社会貢献	0.10	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会などを引き受ける。JAICA研修に講師として参加し、国際交流にも貢献する。国や県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、可能な範囲で引き受ける。	0.05	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会など3件を実施した。JAICA研修に2件講師として参加し、国際交流にも貢献した。沖縄県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、4件引き受けた。
管理運営	0.15	熱帯生物圏研究センターおよび同瀬底研究施設の管理運営に積極的に参画し、同センターおよび施設での研究教育環境の整備を目指す。	0.20	熱帯生物圏研究センター副センター長として、外部評価の実施、マレーシアとの学術交流などを、センター長と共に推進した。センターの教員選考委員を2件務めた。瀬底研究施設長として、長年の懸案であった実験室・水槽使用料徴収を、内部の変更によって実現し、また同様に長年の懸案であった、施設内の職種と業務不一致の問題の改善を図った。
進路指導	0.05	今年度修了予定の2名の大学院生に対して、就職活動などの指導および支援を行い、最低限修了後無職とならないようにする。	0.05	今年度修了した1名の大学院生が、日本学術振興会外国人特別研究員や、海外大学ポスドク研究員に応募することを支援した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	守田　昌哉	所　属	熱帯生物圏研究センター　瀬底研究施設	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	博士課程の大学院審査を受け、学生の受け入れ資格をえる。学部学生対象の実習では、ポイントを抑えた講義と実習を行い、学生の心に残るものにするように努力する。	0.20	博士課程の大学院資格審査を受け承認された。公開講座において簡潔で中身の充実した実験およびそのバックグラウンドを説明する実習を行い、担当した学部生からは好評であった。
研究	0.40	魚類の配偶子に関する論文を2本出版する。また、新たな実験系（タンパク質発現系）の確立を目指す。	0.40	論文は作成中であり、投稿目前であるが出版まで行っていないので目標は達せられていない。新たな実験系の確立は、発現から精製までの一連の作業の確立が出来た。
社会貢献	0.10	タンガニイカ湖調査チームの研究集会および調査隊維持に関与する。さらに、ザンビアに赴き現地で調査を1-2ヶ月行う。	0.10	タンガニイカ湖に赴き調査および研究を行った。研究に関する発表を動物学会で発表した。
管理運営	0.10	瀬底研究施設の施設運営積極的に関わる。具体的には、機器の維持管理などに積極的に関わる。	0.10	機器の維持管理に尽力した。本人の不在時の管理維持体制の強化は、今後の課題である。
進路指導	0.20	新たに来る学生の指導を1）研究遂行に必要な知識と実験技術を教える、2）学生の自主性を促すような指導を行う。そのための学生と良好な信頼関係を得るように努力する。	0.20	学生の指導を共に研究を実施しながら丁寧に説明を行い、学生の知識および手法の取得に目指した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	寺嶋芳江	所　属	熱帯生物圏研究センター　島嶼多様性生物学部門 森林環境資源学分野　兼　熱帯生物資源学部門 生物機能・分類学ユニット	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	1．学生からの意見を積極的に取り入れた教育を行う（農学総合実習・亜熱帯西表の自然）。 2．これまでの研究業績を授業に盛り込み，学生にとって興味深い授業を展開する（熱帯生物資源学特論）。	0.15	1．学生の意見を積極的に取り入れた授業を展開した（農学総合実習・亜熱帯西表の自然）。 2．これまでの研究成果を盛り込み、学生にとって興味深い授業を行った。また、外部講師を招き，生物相互関係に関する野外実習を含んだ授業を行った（熱帯生物資源学特論）。 3．連合大学院の集中講義では，パワーポイントによる菌類生態に関する興味深い授業を行い、学生の高い評価を得た。
研究	0.30	1．学会誌への投稿（J Wood Sci, Mycoscience ） 2．学会での発表（国際学会・日本菌学会・日本きのこ学会） 3．学会での編集委員としての活動（日本きのこ学会） 4．外部研究資金の獲得	0.30	1．学会誌へ2報投稿し，今年度掲載された（J Wood Sci, Mycoscience ）。 2．国際学会を含めて，学会発表を行った（国際学会・日本菌学会・日本きのこ学会）。 3．学会の評議員（日本菌学会・日本芝草学会），編集委員（日本きのこ学会）として活動した。 4．外部研究資金（科研費）を獲得し、3年間の研究を開始した。
社会貢献	0.10	1．フィリピンCLSUおよびIFSとの栽培きのこを通した交流による国際社会貢献 2．西表島での自然環境教育カリキュラム（西表森林環境保全ふれあいセンター実施主体）へ協力	0.20	1．フィリピンの大学（CLSU・IFS）との栽培きのこを通した交流により国際社会へ貢献した。さらに，連合大学院の留学生獲得プログラムにより，ベトナムの大学、研究所との国際交流を行った。 2．西表島での自然環境教育カリキュラム（西表森林環境保全ふれあいセンター実施主体）へ協力した。
管理運営	0.40	1．熱帯生物圏研究センター熱帯生物資源学部門におけるセンター横断的研究に関するコーディネートへ貢献 2．熱帯生物圏研究センター年報編集委員会で活動	0.35	1．熱帯生物圏研究センター熱帯生物資源学部門全体のとりまとめを行った。また、本センター横断的研究のコーディネート的役割を担った。 2．熱帯生物圏研究センター年報編集委員として活動した。
進路指導	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	渡辺信	所　属	熱帯生物圏研究センター西表研究施設	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	西表研究施設における長期集中講義及び実習を3つ実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促す。（1）サイエンスの中心より広がるユニバース（教育）の中における熱帯森林学の位置づけ。（2）分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。	0.15	本年度の実習は、過去の学生の誤情報や夏期の補講授業の影響により、実習生が急減した。正しい日程情報や本学授業計画を把握し、実習日程を再検討する必要がある。教育目標は二項目とも概ね達成した。（0.13点）
研究	0.45	（1）文部科学省科研費挑戦的萌芽研究の円滑な推進。（2）IF付き国際学術誌にファースト若しくはコレスポンディングオーサーとして研究論文を3本執筆する。（3）競争的外部資金の新規獲得。（4）今年度実施する4つの共同利用研究並びに外国人研究員との共同研究の円滑な推進。	0.45	（1）は概ね計画通り進んだだけでなく、ギガシーケンス解析を追加し有意義な結果を得た。（2）コレスポンディングで2本のIF付き国際学術誌に投稿した。（3）メンターとして奨励研究費を獲得（4）共同利用研究は概ね目標を達成した。（0.35点）
社会貢献	0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁関連委員会の委託委員。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応。	0.10	林野庁の委託委員、竹富町への各種協力活動、Peer Reviewへの協力を行い、予定外の実習及び研究調査にも積極的に協力した。（0.9点）
管理運営	0.30	施設今年度予算計画及び運営の円滑な実施。西表研究施設の長期的な運営ビジョンの確立。長年放置されてきた老朽箇所の修繕及び廃棄物の廃棄。	0.30	施設運営は概ね良好に進められた。概算要求プロジェクトを策定することにより、国際研究拠点としての西表研究施設の役割を明確化することが出来た。施設修繕は大分進んだが、廃棄物処理が中途段階。（0.25点）
進路指導	0.00	指導対象者無し	0.00	指導対象者無し
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	自己採点：1点満点中0.82点であることから、今年度の活動自己評価は及第点とする。しかし、今後は単年度のみならず3～5年の中期スパンでの個人、施設単位での教育及び研究ビジョンを更に明確化する必要があるため、次年度以降の課題として計上する。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	成瀬 貫	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	・理工学研究科における授業の実施 ・西表研究施設で行う学内外の実習での指導 ・理工学研究科の大学院生の指導教官としての指導	0.15	平成24年度中に行った学部生向けの教育活動として、琉大理学部の生物学野外実習、および九大・佐賀大・琉球大・宇都宮大の農学系単位互換希望者向けの熱帯農学総合実習を分担担当し、また琉大全学の亜熱帯−西表の自然の主担当教官として、多くの学生にフィールド調査について教育する事ができた。また大学院生に対しては、前期に専門授業を担当するとともに、大学院前期課程の学生１名(留学生)の研究指導も実施し、9月に予定通り卒業させる事ができた。3月卒業の理工学研究科大学院前期課程1名の副査を行い、また審査資格は無いが後期課程の学生1名の審査を補助として副査を担当した
研究	0.60	・国際的科学雑誌への研究成果の投稿、発表 ・学会での報告発表 ・科研費等、外部資金獲得 ・学内外の研究者との共同研究の推進	0.60	本年度の研究成果として、10編の論文が査読付き学術誌に掲載もしくは受理された。また、2009年に行った国際海洋生物合同調査KUMEJIMA2009の成果をまとめたSpecial IssueをZootaxa誌から刊行することができた。学会での研究成果発表も4件に積極的に関わり、各種研究成果を公表する事ができた。科研費や一般財団が提供するの外部資金獲得のために、申請を積極的に行った。
社会貢献	0.10	・国際的科学雑誌の編集者より依頼される査読の実施 ・学会活動（学会誌編集委員等） ・学外の各種専門委員会に対する貢献 ・西表島等における一般市民への研究成果の還元	0.10	今年度中も沖縄生物学会誌とRaffles Bulletin of Zoologyの編集に携わり、そのうち沖縄生物学会誌では主編集者を担当した。さらに学術誌6誌より依頼された11編以上の投稿論文の査読にも貢献した。さらに、2013年3月より、琉球大学資料館(風樹館)を発行者とするオンラインジャーナル「Fauna Ryukyuana」を創刊させ、編集長として琉球列島の動物の多様性情報の記録・共有に貢献していくことが期待される。一般への貢献として、昨年度に引き続き、美ら島研究センターが主催するサンゴ同定と分類 ワークショップを、西表エコツーリズム協会とともに西表研究施設で実施し、多くの地元ダイビング業者にサンゴに関する基礎知識を共有する場を提供する事ができた。
管理運営	0.10	・熱帯生物圏研究センター教授会等への参加を通した管理運営に対する貢献 ・理工学研究科（前期）委員会への参加を通した管理運営に対する貢献	0.10	熱帯生物圏研究センター教授会、及び理工学研究科（前期）委員会には可能な限り参加し、管理運営に貢献した。また理工学研究科では、委員会委員としても貢献した。
進路指導	0.05	・理工学研究科の大学院生の進路指導	0.05	9月卒業の留学生について、National University of SingaporeのResearch Assistant等への就職を勧めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	屋　宏典	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	農学部担当科目（育種学特別講義）、大学院専門科目（育種学特別演習,鹿児島大学連合農学研究科特別セミナー）を担当し、学部及び大学院教育に寄与する。修士及び博士課程学生の学位取得に関する研究教育指導を担当する。	0.15	大学院専門科目（遺伝資源応用学特論）を担当した。修士4名及び博士1名に年限内で学位を取得させることができた。目標を達成したと判断している。
研究	0.30	大学院博士課程の学生と共に研究論文の採択を目指す。 外部資金を獲得し、関連企業との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	0.30	学生との共著論文5編を国際誌に掲載することができた。4件の民間との共同研究を実施し科研費以外の競争的研究経費1件を獲得した。さらにJSPSの外国人特別研究員を獲得した。目標を達成したと判断している。
社会貢献	0.10	県或いは関連外郭団が主催する委員会の委員を努める。また、資源利用に関する研究会（南方資源利用技術研究会）の運営に関わり、企業－大学連携の促進に貢献する。日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に貢献する。	0.10	日本栄養・食糧学会評議委員、日本農芸化学会評議員、南方資源利用技術研究会理事、技術開発支援制度審査委員（内閣府）として相応の役割を果たした。また、日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に相応の貢献をした。目標を達成したと判断している。
管理運営	0.40	熱帯生物圏研究センター長として円滑なセンター運営を行う。、教育研究評議会評議員として大学運営に貢献する。	0.40	熱帯生物圏研究センター長として、円滑に組織運営ができたと判断している。目標は達成したと考えている。
進路指導	0.05	指導下にある修士・博士学生の進路について、早い時期に学生と協議し円滑な進路決定ができるよう努める。	0.05	修士学生4名は就職が内定した。目標を達成したと考えている。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前		渡部　久実	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.20	非常勤講師としての医学部の授業科目（寄生虫学、免疫学）を担当し、CBT(Computer Bsaed Testing)の基準を満たす講義を行う。大学院医学研究科博士課程講義（感染生物学概論、感染免疫制御学特論、感染免疫学演習、感染免疫学実習）では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている基礎科学研究を重視し、地域特性を踏まえた普遍的意義の高い研究の一端を担ってもらう。また、新潟大学医学部非常勤講師（免疫学）を務め、他大学との連携を図る。		0.20	医学部及び医学研究科の講義・実習では、目標どおりの成果を挙げたものと考えられた。また、医学部学生2名の基礎配属研究（4年次学生）をも担当し、基礎研究の重要性を認識してもらった。当該分野所属の1名の博士課程大学院生(D2)には、「感染免疫と栄養」に関する学位論文課題に取り組んでもらうと共に、当該分野の他の研究課題を分担してもらい、これらの成果を日本免疫学会で発表をしてもらった。	
研究	0.40	特命助教、ポスドク研究員、大学院医学研究科博士課程の学生と共に、研究成果の海外学術雑誌への投稿・採択及び関連ある国内外の学会での発表を行う。現在1編が再査読中であり、数編を再投稿あるいは投稿準備中である。関連する分野の外部資金については、文部科学省だけでなく厚生労働省管轄及び民間企業からの資金獲得を目指す。		0.40	当該分野及び共同研究の成果としては、国際雑誌に5報が掲載され（第2著者1編および最終著者4編）、他2報（最終著者1編、最終・責任著者1編）を投稿準備中である。国内外での研究成果発表は、国際シンポジウム（日本、ラオス）、国際学会（フィリピン、ブラジル）及び日本免疫学会大会等で行った。	
社会貢献	0.25	研究課題（マラリア制圧を目指したマラリアに対する感染防御機構の解析）に関し、中期目標に掲げられている国際社会への積極的な貢献するために、東南アジア諸国（ラオス、ベトナム）との国際共同研究を進める。このような国際連携については、文部科学省の長崎大学熱帯医学研究拠点特定領域共同研究及び国立国際医療研究センター・国際医療研究開発事業（国際医療協力研究分野）の分担研究者として積極的に参加する。また、琉球大学発のベンチャー企業の代表取締役として、産学連携活動をも推進する。		0.30	本年度の国際共同研究課題（マラリアとHIV/AIDS制圧）に関しては、6月にラオス国サバナケット県とベトナム国クワンチ省との感染症対策連絡会議に出席し、国境マラリア制圧への疫学調査の実施を決定し、9月以降、3回にわたり現地で調査・研究を実施した。また、平成24年度沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業である「ワクチンおよびアジュバントの研究ネットワーク活用型研究開発」の分担課題「国際医療貢献を目指したアジア地域での研究ネットワーク基盤構築」を担当した（共同研究機関は国立国際医療研究センターと京都薬科大学）。さらに新潟大学医学部での免疫学の講義の一部を担当した。	
管理運営	0.10	医学研究科学務委員会、医学部病原体等安全管理委員会、琉球大学動物実験委員会、琉球大学利益相反マネジメント委員会及び琉球大学国際交流委員会・研究交流専門委員会の委員として、各委員会活動に積極的に参加する。また、熱帯生物圏研究センターの一員として、当該センターの管理・運営・広報活動に努める		0.05	海外出張や国内学会・研究会等の参加等もあり会議への欠席もあったが、出来るだけの管理運営へ貢献を行った。特に医学研究科学務委員会では医学研究科の重点目標及び重点目標達成に関して、修士・博士学生へのインターンシップの実施や各分野の研究室へのローテーション配属に取り組んだ。	
進路指導	0.05	大学院博士課程学生には、研究を通して将来の進路を前向きに考えられるように指導すると共に、琉球大学大学院博士課程学術研究優秀者やティーチングアシスタント・リサーチアシスタント雇用等への申請を積極的に進める。		0.05	本年度は終了予定の大学院生が居なかった為、学生への経済的援助に積極的に取り組んだ。その結果、特待生への採用やティーチングアシスタント・リサーチアシスタントとしての雇用が実現できた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	前川秀彰		所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.20	博士後期課程3年の主査、博士後期課程2年の副査、外国人プログラム修士課程2年の主査を務め研究を進めるに必要な技術・能力を持てるよう指導する。大学院担当科目（前期分子細胞機能学、後期応用分子遺伝学、特別演習等、外国人プログラム用英語講義を含む）を担当し、研究内容のプレゼンテーション、討論の能力、論文の作成の基礎について基準レベルに達するよう指導する。又学部共通科目「遺伝子の話」を分担する。学部との共同研究による学生の指導を行う。全学及び分生研ハラスメント対応教員としての役割を担う。理学部3年生希望者への時間外講義を行い分子生物学の基本を理解させる。		0.20	博士後期課程3年の主査、博士後期課程2年の副査、外国人プログラム修士課程2年は後期に副査（後期に主査から副査に変更になった）を務め研究を進めるに必要な技術・能力を持てるよう指導した。博士の学位は無事取得の見込みである。大学院担当科目（前期分子細胞機能学、後期応用分子遺伝学、特別演習等、外国人プログラム用英語講義（今回は後期も開校した）を含む）を担当し、研究内容のプレゼンテーション、討論の能力、論文の作成の基礎について基準レベルに達するよう指導した。又理学部［遺伝子機能学」を中島准教授と分担した。グループ発表という新しい試みを続けており学生からは好評である。学部共通科目「遺伝子の話」を分担した。学部との共同研究による学生の指導を行った。全学及び分生研ハラスメント対応教員としての役割を担った。理学部3年生希望者への時間外講義を行い分子生物学の基本を理解させた。	
研究	0.40	概算要求研究推進「運び屋」による「動く遺伝子」ゲノム侵入機構の解明と汎用型遺伝子導入ベクターの開発プロジェクトを連携先の鹿児島大学と協力して進める。プロジェクト遂行に向けてポスドク及び大学院博士課程の学生と共に研究の発展を図り、研究論文の採択を目指す。採択された2件の熱生研共同研究、大阪大学微生物病研究所が採択した1件の共同研究を積極的に推進する。農水省生物研との共同研究を進める。基生研との個別共同研究を進める。		0.40	概算要求研究推進「運び屋」による「動く遺伝子」ゲノム侵入機構の解明と汎用型遺伝子導入ベクターの開発プロジェクトを連携先の鹿児島大学と協力して進めた。プロジェクト遂行に向けてポスドク及び大学院博士課程の学生と共に研究の発展を図り、研究論文の採択を目指した。採択された2件の熱生研共同研究、大阪大学微生物病研究所が採択した1件の共同研究を積極的に推進した。農水省生物研との共同研究を進めた。基生研との個別共同研究を進め成果が出た。	
社会貢献	0.19	日本蚕糸学会理事（任期あと1年）、蚕糸学会編集委員、ナショナルバイオリソースプロジェクトカイコ運営委員会委員長（任期あと5年）、経済産業省産業構造審議会臨時委員（再任、任期あと1年）、国立感染症研究所客員研究員、OISTバイオセーフティー委員を務めており、それぞれの役割を担当する。浦添市多角的蚕糸絹産業創出協議会委員（任期あと0.5年）として養蚕業復興に協力する。高校生インターンシップ受入を行う。		0.19	日本蚕糸学会理事は24年12月に終了し、代議員として新たに選出された。蚕糸学会編集委員、ナショナルバイオリソースプロジェクトカイコ運営委員会委員長（任期あと5年）、経済産業省産業構造審議会臨時委員（再任、任期あと1年）、国立感染症研究所客員研究員、OISTバイオセーフティー委員を務めており、それぞれの役割を担当した。浦添市多角的蚕糸絹産業創出協議会委員として養蚕業復興に協力した。高校生、中学生のインターンシップ受入を行った。市民公開講座で講演を行った。	
管理運営	0.20	施設長（任期あと2年）として施設の管理運営に当る。支援センターの放射線取扱主任者として引き続き管理業務を分担し、分生研の免除レベル使用区域の管理を行う。危機管理、安全対策等について今までの経験を生かして貢献する。消防訓練を実施し、防災担当も昨年に引き続き行う。GL会議メンバー、施設長懇談会のメンバー、部門世話役、大学院独立専攻WGメンバーとしての役割を担当する。理学部将来計画委員会WGのオブザーバーとして協力する。		0.20	施設長（任期あと2年）として施設の管理運営に当あたった。支援センターの放射線取扱主任者として引き続き管理業務を分担し、分生研の免除レベル使用区域の管理を行った。危機管理、安全対策等について今までの経験を生かして貢献した。消防訓練を実施し、第1回全学防災訓練にも参加した。GL会議メンバー、施設長懇談会のメンバー、部門世話役としての役割を担当した。理学部将来計画委員会WGのオブザーバーとして協力した。	
進路指導	0.01	分野の推進研究員である大学院生、学部学生に対し、分野長として本人の希望に出来るだけ沿った適切な指導を行う。		0.01	分野の推進研究員である大学院生に対し、分野長として本人の希望に出来るだけ沿った適切な指導を行った。	
	0.00			0.00	0	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松﨑吾朗	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、講義、演習並び実習を行う。この中で、講義による感染症に関する教育とともに、大学院生に対する個別指導を行い、研究の企画と実施について教育する。医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行う。共通教育では、「遺伝子の話」を分担し、教養の生物学教育に参加する。	0.40	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、講義、演習並び実習を行った。この中で、講義による感染症に関する教育とともに、大学院生に対する個別指導を行い、研究の企画と実施について教育した。医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行った。共通教育では、「遺伝子の話」を分担し、教養の生物学教育に参加した。
研究	0.40	自ら研究を分担するとともに、大学院修士課程の学生の研究を指導し、その成果を英文原著論文として投稿し一流専門誌への採択を目指す。また、研究成果を学会において発表し、学会の場での討論により研究者間での情報交換と研究の改善を目指す。研究経費については、科学研究費補助金を含む外部資金獲得を目指す。	0.40	自ら研究を分担するとともに、大学院修士課程の学生の研究を指導し、その成果を英文原著論文として一流専門誌への採択を目指し執筆中である。また、研究成果を学会において発表し、学会の場での討論により研究者間での情報交換と研究の改善へのフィードバックを行った。研究経費については、科学研究費補助金一般Bの獲得を目指して申請を行った。また長崎大学熱帯医学研究所との共同研究を行った。
社会貢献	0.05	学外の遺伝子組換え生物等使用安全委員会および病原体取扱安全委員会に参加し、沖縄における適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献する。	0.05	沖縄科学技術大学院大学バイオセイフティ―委員会の委員長として、沖縄における適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献した。
管理運営	0.10	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献する。また、熱帯生物圏研究センターの運営に積極的に参加する。	0.10	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の副委員長として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献した。熱帯生物圏研究センターの運営にも積極的に参加した。また、研究推進戦略会議委員および亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構のあり方に関する検討委員会の委員として大学運営に貢献した。
進路指導	0.05	大学院学生の卒後の進路について、研究・就職の両面でその適性について話し合い、就職活動における書類の申請等について指導を行う。	0.05	大学院医学研究科修士課程の学生の卒後の進路について、研究・就職の両面でその適性について話し合い、指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	徳田　岳	所　属	熱帯生物圏研究センター　分子生命科学研究施設	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	「遺伝子の話」を通じて、共通教育に参加する。また、理学部および理工学研究科専門科目の講義・実習を通じて理学部学部生ならびに理工学研究科大学院生の教育にも携わるとともに、大学院生の教育研究指導を行う。さらに他大学においても、集中講義を通じて学生教育に携わる。	0.35	「遺伝子の話」を通じて、共通教育に携わった。また、理学部専門科目の講義および実習を担当し、理学部学生の学部教育にも携わった。さらに大学院理工学研究科博士前期および後期課程の講義を担当するとともに、大学院生の研究指導を通じて大学院教育に携わった。これらに加えて、今年度は山口大学大学院理工学研究科の集中講義も担当した他、中国山東大学で講義を行った。
研究	0.35	学内外の共同研究者と共に最低1報の研究論文の採択を目指す。また、国際学会において成果発表を行う。競争的研究資金など外部資金の獲得を目指し、研究環境の整備・充実を図る。	0.35	平成24年度は査読付き原著論文5報、和文著書の分担執筆3編を発表した。この中には今年度、中国山東大学で実施した国際共同研究の成果も含まれる。また、和文専門書1冊を共編者として編纂した。国内外での学会発表も積極的に行った。ただ、TBRCプロジェクト経費以外の研究資金の獲得には成功しておらず、外部資金獲得に関しては残念ながら目標達成には至らなかった。
社会貢献	0.08	ホームページや市民公開シンポジウムを通じて、地域への情報発信を行う。沖縄生物学会役員（会計監査委員）としての活動を行い、地域社会への大学や研究機関における研究成果の還元に貢献する。	0.08	熱生研の公式HPの維持管理を行い、熱生研の活動を地域社会に情報発信した。また、市民公開シンポジウムに参加してポスター展示を行い、地域への情報発信を行った。さらに沖縄生物学会役員としての活動に加え、沖縄科学技術振興センターが主催するシンポジウムにおいて招待講演を行い、研究成果を地域一般に広く紹介することに努めた。
管理運営	0.20	分子生命科学研究施設のレイアウト委員としての活動やオープンキャンパスなどの活動に積極的に関与すると共に、試薬管理システムの維持管理に努める。。また、全学の化学物質管理検討WGのメンバーとして薬品管理システム全学導入に向けた活動を行う。	0.20	分生研のレイアウト委員長、施設公開実行委員長、広報委員として活動した。試薬管理システムの管理・維持、使用法の講習を行った。また、理工学研究科OIMAP運営委員として特別プログラムの策定と運営に携わったほか、全学の化学物質管理検討WGのメンバーとして薬品管理規定や組織の立案、薬品管理システム全学導入に向けた活動に携わった。非常時の施設見回りなども行った。
進路指導	0.02	大学院生より進路に関する相談があった場合には、随時相談に乗るなどして適切な進路指導を行う。	0.02	随時大学院生の進路相談に乗り、適切な進路指導に努めた。なお、平成24年度は卒業年次の学生がいないため、特に成果として記載できる内容はない。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松井　徹	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	工学部担当科目（環境衛生工学）を担当し、JABEEの基準を満たす講義を継続して行う。大学院講義（衛生工学特論、Sanitary Engineering, Environmental Biotechnology）では、英語での講義を行う。学部学生、大学院生に関し、それぞれの立場に応じて研究室において必要な役割を教育する。バイオインフォマティクス関連講義実施のために学内外での積極的な活動を実施する。	0.25	工学部担当科目、英語での大学院講義を継続して行った。学外からの依頼によりバイオインフォマティクス関連講義を実施した。
研究	0.30	大学院卒業生、非常勤技術職員と共に研究論文の採択を目指す。他機関との実質的な共同研究を開始し、成果報告に全力を尽くす。 独自菌株の次世代DNAシーケンサによる網羅的ゲノム解析を継続し、機能解析の新たなアプローチを試みる。外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。	0.30	原著論文5件（筆頭4件、責任著者5件）を投稿採択された。内1件は大学院卒業生の業績をベースにするものであり、卒論生OBの業績は現在審査中である。新研究グループでの網羅的ゲノム解析と得られた知見からの機能解析を科研費研究として実施中である。
社会貢献	0.10	研究会幹事、委員として県内外の研究指針に関わると共に、マッチングフォーラムなどに積極的に参加し、一般への研究アピール、技術支援を行う。	0.10	県内委員を継続的に実施し、研究紹介のための市民公開講座に参加した。マッチングフォーラム等の研究紹介の機会は得られなかった。
管理運営	0.30	発明審査委員会等の委員会活動に積極的に参加すると共にセンター内研究環境改善のための提案を行う。	0.30	発明審査委員会等の月例委員会にはほぼすべて出席すると共に学内でのセンターの発明特許面での重要性を受けリサーチツールに関するセミナー開催を依頼した。
進路指導	0.05	必要に応じて非常勤職員の就職活動を支援すると共に、試験勉強と卒業研究との両立を適切に行うよう環境整備に努める。	0.05	非常勤職員の新たな就職機会を得ることはできなかったが、業績のための支援を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	新川武	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	共通教育科目「遺伝子の話」の一部を担当し、遺伝学や遺伝子工学に対する興味をもてるような講義をする。また、それをつうじて研究に対する好奇心を育て、大学院進学を志す学生が増えるよう努力する。医学研究科の大学院生には研究及び論文購読会をつうじた教育訓練を施す。医学研究科からの実習生を受け入れ、研究現場での実践的な実験作業を経験してもらう。また、特命研究員やポスドク研究員に対しては、独立して研究ができるよう、実験手技的なアドバイスだけでなく、原著論文、競争的資金獲得のための研究費申請書等の書き方を指導する。技術補佐員に対しては種々の実験補助のノウハウを直接、また間接的に指導する。原著論文、HPその他英語による情報発信ができるよう英語教育にも力を注ぐ。	0.20	共通教育科目「遺伝子の話」の一部を担当し、遺伝学に関する講義を実施した。また、大学院生やポスドク研究員には論文購読会をつうじた教育訓練を実施した。さらに、特命研究員に対しては独立して研究ができるよう、特に、原著論文の書き方、競争的資金獲得のための研究費申請について適宜指導してきた。
研究	0.30	特命研究員、医学研究科の大学院生、技術補佐員らと共に新しいワクチンプラットフォームの技術基盤確立を目指す。特に、独自の免疫賦活機能性物質（アジュバント）やデリバリーシステムの開発に注力するとともにワクチンの実用化に向けた取り組みをより一層強化する。今年度は特にマラリア等の熱帯感染症に対するワクチンのプラットフォームづくりに注力する以外に家畜動物用ワクチンの研究開発を推進する。また、それによって原著論文発表（IF ＞ 3）、学会発表、知的財産権獲得等（外国出願も視野に入れる）をつうじた有形、無形の研究成果物へ繋げる努力をする。さらに、科学研究補助金（基盤研究（C））、その他、他省庁からの競争的資金、産学連携研究費、委任経理金等々の競争的外部資金を獲得することで、学術面のみならず研究運営の面でも自立した研究室運営を継続する。さらに、感染症研究関連の国際共同研究ネットワークに参画し、その成果を国際学会やワークショップ等で研究発表する。	0.30	特命研究員、ポスドク研究員らと共に新しいワクチンプラットフォームの技術基盤確立を進めてきた。特に、免疫賦活物質（アジュバント）やデリバリーシステムの開発に注力するとともに動物用ワクチンの実用化に向けた取り組みを進めてきた。さらに、マラリアワクチン開発に資するワクチンのプラットフォームづくりに注力した。また、それによって原著論文、学会発表等をつうじた研究成果物の社会への情報発信にも努めた。研究費に関しては、科学研究補助金（基盤研究（C））、各省庁からの競争的資金、産学連携研究費、委任経理金等々の研究費の獲得にも努めた。それによって、「沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」（感染症対策研究拠点構築事業）の大型予算獲得に成功した。さらに、感染症研究関連の国際共同研究ネットワークに参画し、成果を国際学会で発表した（共同演者）。
社会貢献	0.30	若手研究者や大学院生の人材育成をつうじて長期的な社会貢献を目指す。熱帯生物圏研究センターで行われている研究内容を学会、セミナー、市民公開講座、各種HP、オープンキャンパス、施設公開等を利用して幅広く宣伝することで、地域社会へ科学技術の重要性を知らせる活動に参加する。また、今年度で7年目を迎えるバイオベンチャー企業とのレンタルラボを介した共同研究活動では、学術および技術面から全面的に支援し、沖縄のバイオ産業と科学技術振興に貢献すると同時に動物用ワクチン製剤の開発をより一層推進する。沖縄県科学技術振興課、沖縄県産業振興公社等のバイオ関連業務担当者らに対し、バイオ産業面でアドバイザー的な機能を果たせるよう努力する。さらに、「沖縄感染防御プロジェクトネットワーク」（Okinawan Association for Infectious Disease Control and Elimination（O-AIDE））を充実させ、また、そのHPを介して当該研究領域での沖縄の取り組みなどについても全国に情報発信する。このO-AIDEを活用し、地域の科学技術振興に貢献する努力をする。さらに、継続して文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として国の科学技術の動向に対する意見書等を提出することで我が国の科学技術の進展に寄与する努力をする。	0.30	熱帯生物圏研究センターで実施している研究を学会、セミナー、市民公開講座、HP、オープンキャンパス、施設公開等で幅広く宣伝することができた。レンタルラボを介した共同研究活動では、学術および技術面から支援し、産学連携を通じた社会貢献を目指すことができた。また、動物用ワクチン製剤の開発に関する取組によって研究成果を社会還元する努力ができた。沖縄県が進める知的クラスター形成事業ではアドバイザーを務めた。文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として国の科学技術の動向に対する意見書等を提出し、我が国の科学技術の進展に寄与する努力をした。
管理運営	0.15	熱帯生物圏研究センターおよび分子生命科学研究施設の管理運営に携わることで、全国共同利用施設として今後益々発展できるよう努力する。また、施設管理運営費用の一部を担うことが可能な間接経費や委任経理金等の外部資金獲得のため継続して努力する。熱帯生物圏研究センターの年報作成委員委員長として適切に働く。また、広報委員として熱生研の広報に寄与することで、社会に広く我々の活動を知ってもらう努力をする。	0.15	熱帯生物圏研究センターおよび分子生命科学研究施設の管理運営に携わり、各種の役割を果たした。熱帯生物圏研究センター年報作成委員委員長として働いた。また、広報委員としての役割を果たした。
進路指導	0.05	研究室所属の大学院生、ポスドク研究員の進路（進学、就職）について	0.05	研究室所属のポスドク研究員の進路（進学、就職）について指導し、ポスドク研究員１名が他大学の助教ポスト獲得に成功した。さらに、他の研究員へも適切な進路指導を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	岩崎　公典	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.15	学部担当科目（遺伝子の話）に関して、前年度のテキストマップ形式のプリントを用いた講義が、学生の理解を大きく助けたと感じており、今年度も同方式の講義を行う。研究室の学生の指導においても、留学生の比率が大きくなっていることから、出来る限り英語による教育、指導を心がける。	0.30	学部担当科目に関しては、レポートの内容から、概ね適切な講義が行えたものと判断している。研究室の学生指導に関しては、学生数が多かったため、比較的多くの時間を充てたつもりである。指導時間と内容にややムラがあったように感じるが、進捗状況から鑑みるに、留学生を含め適切な指導を行えたものと考えている。
研究	0.60	研究成果を学術誌に投稿するとともに、国際学会での報告発表を行う。現在進行中の研究は新たな研究領域への発展を見せているため、研究を効率的に進めるため、関連の外部資金の獲得を目指す。	0.50	継続して行なっている研究の成果は十分であったと考えているが、英作文の遅れから論文投稿に至っていない。新たな研究領域からは食品分野への発展が期待できる成果が得られた。外部資金は現在申請中である。
社会貢献	0.05	共同研究を通して、専門技術を要する動物実験による機能性評価や活性測定などを行い、企業製品の付加価値の向上を技術面からサポートする。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域に公開する。	0.05	企業または外部組織との共同研究を通して、機能性食品の高付加価値化に貢献した。県組織の研究施設への技術提供などのサポートに務めた。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域にアピールした。
管理運営	0.05	所属施設の安全衛生委員として活動する。センター共通分析機器の運用責任者として活動する。	0.05	所属施設の安全衛生委員、全学情報システム技術専門委員、学内化学物質管理システムワーキンググループオブサーバーとして活動した。センター共通分析機器の運用責任者として活動した。
進路指導	0.15	大学院博士課程に進学を希望している修士学生に関しては、博士課程に在籍している学生との話し合いの時間を設け、その進学意思を確認する機会を多く与える。また就職活動を希望する学生に対しては、平日日中の就職活動による研究の停滞を軽減する措置（居残り実験や休日実験がしやすい環境整備）を心がける。	0.10	就職活動を希望する学生には平日の就職活動による研究活動の停滞を軽減する措置（居残り実験や休日実験がしやすい環境整備）を心がけ、研究と就職活動の両立がしやすい環境整備に務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	新里　尚也	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.10	共通科目「遺伝子の話」について、講義内容の見直しを行い、図表等を多様したわかりやすい講義を実施する。講義のアンケートで理解度を評価し、全く理解できなかったとする学生が極力でない講義を目指す。また、一名の卒業研究を指導し、内容の充実した卒業研究を目指す。	0.10	これまで解説が複雑で理解を妨げていた、生命倫理に関する法律（クローン規制法）の箇所を整理して分かり易い講義を行った。講義の理解度を自己採点するアンケート結果は73点（100点満点）であり、前年度の63点よりは改善された。
研究	0.50	原生動物細胞内共生体のゲノム解析を行い、ドラフトゲノムを取得する。自らが執筆する共著論文二報以上の投稿を目指す。また研究資金面では、積極的に競争的資金に応募し、１件以上の資金獲得を目指す。	0.50	原生動物細胞内共生体のゲノム解析は完了できなかったが、新たな試料調製法を確立できた。共著論文は二報のみであったが、若手研究者向けに原生動物共生系の総説を執筆した。研究資金は新学術領域研究に採択された他、発酵研究所の次年度からの研究助成に内定した。
社会貢献	0.20	沖縄県の受託研究である、知的クラスター形成事業の最終年度にあたり、PLとして事業の総括にあたる。また、次世代シーケンサーの技術交流会をとおして沖縄県のゲノム研究レベルの向上に寄与する。その他、インターンシップの受け入れ等を通じた地域社会への貢献も積極的に行う。	0.20	知的クラスター事業が最終年度を迎え、学術、応用両面で特筆すべき成果が得られた。また、参画機関の共同研究も活発に行われ、推進委員会においても一定の評価が得られた。その他、沖縄県の新規インキュベーション施設の運営委員として設置準備に貢献した。
管理運営	0.10	ギガシーケンサーの機器運用に関わり、円滑な解析に貢献する。レイアウト委員やオープンキャンパス準備委員としての仕事を通して、分子生命科学研究施設の管理運営に積極的に参加する。	0.10	ギガシーケンサーについては、機器トラブルが若干あったものの、年間とおして安定した解析が実施され、他部局、学外の共同研究も積極的に受け入れた（7件）。施設公開や市民公開講座も広報の工夫により例年以上の参加者を記録した。
進路指導	0.10	来年度卒業予定学生の進路相談や就職活動のスケジュール調整に積極的に関わり、本人の希望と適正に合った就職、進学先へ進めるように努力する	0.10	卒業研究を指導した学生は4月には希望企業へ内定していたので、直接的な進路指導等はなかったが、卒業研究を進める中で、研究計画の立案やスケジュール調整、レポート作成等について、社会人として必要なスキルが身につくように意識的に指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	梅村　正幸	所　属	熱帯生物圏研究センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	当研究室の受け入れ大学院生は総勢2名である（内1名は休学中）。受け入れ学生は申請者（梅村）の専門分野の研究テーマを基に研究を遂行しているので、その教育（研究指導）を行う。	0.20	今年度で大学院課程を修了する学生の研究技術の習得、学習能力の向上は一定の基準をクリアしたものと判断できた（修士論文の提出、口頭発表による最終試験はクリアした）。また、一般教養における講義「遺伝子の話」の1コマを担当し、今年度は「免疫」を解説した。
研究	0.40	1）受け入れ学生・スタッフと共に研究論文の採択を目指す。 2）多くの学会・研究会に参加し、自らの研究成果を報告する。3）外部資金（科研費をはじめ、民間団体からの助成・寄付）を多く獲得し、社会に還元する研究開発に努める。4）学会、研究会等の実行委員（座長やコンビナー）等の役割を引き受ける。	0.40	年度目標を大筋にはクリアしているものと判断した。詳細は以下の通りである；1)学術論文採択に関して、1編学術論文(International Immunobiology)に投稿中であるが、現在Pending revisionである。また、専門誌(医学のあゆみ)から1編の総説を依頼され原稿を執筆した。2）研究成果は、国内学会(第85回日本細菌学会総会, 第82回実験結核研究会, 第23回日本生体防御学会学術総会, 第77回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 第41回日本免疫学会学術集会)にて計7報の発表を行った。3）継続中の科学研究費(基盤C)以外に、熱帯医学研究拠点特定領域共同研究による研究費の研究費、厚生労働科学研究費補助金政策創薬マッチング研究事業（官民共同研究）を獲得した。4）第85回日本細菌学会総会において、若手対象ワークショップのオーガナイザー、日本生体防御学会学術総会では座長の依頼があり、担当した。他に、①国立感染症研究所、東京大学医科学研究所の研究者と共同研究を行い、上記の学会で発表することができた。②各専門学術雑誌（Microbiology and Immunology, Journal of Immunology, Japanese Journal of Infectious Diseasesなど）のレビュワー（計4編）を依頼され、査読を行った。③日本インターフェロン・サイトカイン学会よりNews Letterの執筆依頼があり原稿を執筆した。
社会貢献	0.10	専門分野である微生物学（感染免疫学を含む）の知識を生かすため、看護専門学校の非常勤講師を務める。	0.10	専門知識を生かして、看護専門学校（医療法人おもと会 沖縄看護専門学校、那覇市医師会 那覇看護専門学校）2校で「微生物学」を担当し、計42コマの講義を行った。さらに、那覇看護専門学校においては「生化学」の講義も一部(8コマ)行った。那覇市で開催した市民公開講座の展示会場では、専門である「結核」ならびに「食中毒」の危険性等を来場した市民に説明した。依頼はなかったが、高校生を対象とした出張講座「タイトル；本当は怖い結核」を申請している。
管理運営	0.20	学内全体では、安全衛生委員会の委員会活動に積極的に参加する。所属施設内では、施設運用に積極的に働く。	0.20	全学の「安全衛生委員」として当施設の研究環境改善を常に心掛けると共に、月1回の委員会にも全て出席し意見を述べた。また、今年度より「琉球大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員」に任命され、審査委員会への参加、審査事項に対する発言等を積極的に行った。施設一般公開の運営や共通機器管理等も例年通り積極的に取り組むことができた。施設内の動物管理区域の運営管理にも携わった。
進路指導	0.10	所属大学院生の将来像、進路希望を真摯に聞き、自分の経験や知人からの情報をできる限り伝える。	0.10	指導している大学院生が今年度で修了するが、本人の希望である職種に採用が決まらず、精神的に不安定になっていたので、技術補助員としての採用を決めた。但し、本人が希望する職種に着任できるように今後も進路相談をこまめに行う予定である。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。